

命の大切さを学ばせる体験活動

山口市立宮野中学校

学校の概要

① 学校の概要

- 学級数：13学級
- 生徒数：347人
- 教職員数：31人
- 活動の対象学年：1、2年

② 体験活動の観点などからみた学校環境

- 本校は山口盆地の北部に位置し、周囲は山に囲まれ、水田を耕作している農家も多く、自然の豊かさを感じさせる地域である。
- 宮野地区は都市近郊地域として人口増加は続いている。高齢者が多い地区の割には核家族が多く、地域と学校との結びつきが希薄で、学校の様子が地域に伝わりにくい面がある。

③ 連絡先

- 〒753-0021
山口市桜島四丁目9-1
- 電話：083-928-0144
- FAX：083-928-0597
- 電子メール：miya-jhs@c-abie.ne.jp

体験活動の概要

① 活動のねらい

- 地域のお母さん方と、乳幼児との交流体験や専門家からの直接の指導を通して、生徒たちに自分の身体、性、命や生き方等について深く考えさせる。
- 職場での勤労体験を通して、働くことの厳しさや喜びにふれ、社会の仕組みやマナーについて学び、自分の将来について真剣に考えさせる。

② 活動内容と教育課程上の位置付け

- 「赤ちゃんと遊ぼう、赤ちゃんに学ぼう」
 - ・ 赤ちゃんとのふれあい体験学習
- 2年 総合的な学習の時間 10時間
- 2年 特別活動（カード作り）2時間
- 助産師による、命、からだ、性についての授業
 - 1年 保健体育 2時間
 - 2年 総合的な学習の時間 4時間
- 職場体験学習
 - 2年 総合的な学習の時間 18時間

1 活動に関する学校の全体計画

○ 活動のねらい

昨年度から実施している本校生徒の心とからだの実態調査をみると、性行動の許容度が高く、保護者の考えとのギャップが予想された。本年度は「心とからだのアンケート」をもとに、親の思いと、子どもの本音を親子が互いに知ることを目標とした。これをもとに、これまで多くの命を取り上げてきたベテラン助産師から、発達段階をふまえて各学年に講話をしてもらうことで、正しい知識の理解と、誰もが周囲に祝福されて誕生し、慈しまれる存在であることを理解させることをねらった。

地域の子育てネットワークのお母さん方と共に、赤ちゃんの1年間の成長の見守り体験をする中で、命のつながりや命の大切さを学ばせたい。また、どのように育ってきたかを知ることで、周囲の人たちへの感謝の気持ちを育てたいと考えた。

○ 全体の活動計画

学年	活 動 の 内 容	単 位 時 数	教育課程の位置付け
全学年	生徒と全家庭数に「心とからだのアンケート」実施	—	6月 なし (学校保健委員会)
2年	事前学習を行い、当日は母さん方から子育ての話の聞き、赤ちゃんについて知り一緒に遊ぶ	5時間	6月 総合的な学習の時間
1年	助産師による性教育「第二次性徴 思春期の身体と心」	2時間	6月 保健
2年	職場での勤労体験を通して、働く意義を知り、社会のルールを肌で感じ取る。	18時間	夏休み 総合的な学習の時間
2年	総合でもおもちゃ作りを行い、赤ちゃんと一緒に遊ぶ	9時間	12月総合・特活
2年	赤ちゃんや、お母さんへお礼のメッセージカードを送る	2時間	12月 特活
2年	助産師による性教育 「今、あなたに伝えたいこと 思春期の心 1」	2時間	1月 特別活動
2年	助産師による性教育 「今、あなたに伝えたいこと 2」	2時間	2月 特別活動

2 活動の実際

① お母さんと赤ちゃんとのふれあい体験活動

○ 事前指導

地域の子育てサークルのお母さん方からの呼びかけで始まった赤ちゃんとのふれあい活動である。今回初めての活動であるため、何を準備しどのように進めていくか、ふれあい活動をどう展開するか等、年3回事前打ち合わせを行った。

○ 活動の展開

地域のお母さんと赤ちゃん約50組に学校へ来てもらい、交流を深めていった。赤ちゃんたちと生徒のグループを固定し、半年後の活動も同じ赤ちゃんやメンバーにして、半年間の赤ちゃんの成長を確認し学んだ。また、お母さん方に妊娠、出産、育児、名前に込めた思いなどをグループごとに質問し、親の思いや願いを学んだ。生徒は自分たちで作ったおもちゃや風船、シャボン玉等を使って、グループ毎に工夫して一緒に遊んだ。

○ 事後指導

2回の体験活動終了後、同じグループのお母さんと、赤ちゃんにお礼の気持ちと、すこやかな成長への願いを込めて、メッセージカードを送る。カードの返事を送ってこられたお母さんが何人もあり、交流を深めることが出来た。

また、活動の感想をまとめ、学校便りや学級通信、保健便り等に掲載する



ことにより、生徒は仲間の様々な考えを知ることができた。また、保護者や地域の方にも学校の取組や生徒の活動の様子を紹介することができた。

【生徒の感想から】

- 今回の学習を通じて感じたことは、自分の経験のなさでした。この授業があるまで僕は生後間もない赤ちゃんを抱いたことがありませんでした。小さい子と遊ぶことはあっても、今日のように親のいる形で交流したことはありません。この活動で「人間ってこんな時期があるんだなあ」とか「僕もこんな時期があったんだなあ」など、いろいろな思いが浮かびました。「生きていく中で、こんなに沢山のことがあって成長していくんだなあ」と思い、これからは何事も大きく見てチャレンジしていきたいと思いました。

【赤ちゃんのお母さんの感想】

- 我が子も中学生も、ともに成長を見守りたい。できれば我が子が中学生になるまでこの活動が続き、我が子も赤ちゃんともふれあえるといい。
- おもちゃを作る時の思いを聞かせてもらい、本当に嬉しかった。子どもが泣いた時に、私がせかしてあやそうとしたのに対して、中学生の方がゆっくりあやしてくれ、心のゆとりを感じました。

【子育てサークル代表者の感想】

- お母さん自身のあの緊張ぶりを見て、本当に今、異世代とのかかわりが全くないのだということを感じました。でも、ただ出会い、あの空間に一緒にいただけで、無邪気で優しい、普通に育っている中学生（もちろんそればかりではない日常もあるでしょうが）を見て、とても安心できたのではないかと思います。きっと、街で中学生に会った時も、知らないが故の固い顔ではなく笑顔を向けられることと思います。それは子育てをしていく上で大きな安心感になったり、良かったと思えることになったりするのではないかと思います。

② 助産師による、命の大切さについての授業

○ 事前指導

「心と身体のアナトーミー」を1学期初めに取り、いくつかの項目で生徒と保護者の性意識の差がはっきり現れていた。また、1年から2年に学年が進む間に性行動への許容度が高くなっていった。正しく判断するための、正しい情報が必要と考え、本校の実態を保護者に知らせるとともに、助産師と性教育の進め方について検討を行った。

○ 活動の展開

「上級思春期相談士」の資格を持つ助産師に、各学年の発達段階を踏まえた指導をしていただいた。また、助産師という立場から命の尊さと誰もが望まれて生まれてきたことを中心テーマに話をしてもらい、生徒は性が自分の一生に関わる問題であることを理解した。



○ 事後指導

生徒の感想・評価と、学校側の要求をきちんと伝え、助産師任せにせず、学校側と一緒に授業内容を検討した。赤ちゃんとのふれあい体験をベースに話を聞くことが出来た。

3 活動の実施体制

○ 学校支援委員会

窓口を教頭とし、養護教諭や家庭科教諭が必要に応じて関係者と連絡調整を図る。主に地域の子育てサークル、保健センターとの連携と支援は大きな支えとなっている。

○ 配慮事項等

乳幼児が初めて学校を訪れるため、保護者への案内状の準備を行い、活動の理解を求めた。また、体育館での活動は安全面への配慮のためにグループ毎にマットを敷き毛布を掛け、ストロープを用意するなど、細かい配慮をした。

4 活動の評価工夫と指導の改善

○ 最初と半年後ではどのように自分の意識や気持ちが変わったか、評価をさせた。

○ 協力を得たお母さん方にも評価をもらい、来年度に向けた活動の改善点が明確になった。

5 活動の成果と課題

○ 成果

地域の子育てサークルとの連携が大きな力になっている。市内には20以上の子育てサークルがあるが、本校の取組が話題になり、市内の他の中学校にも活動が広がっていった。地域と学校の結びつきが希薄な面はあるが、必要性があれば協力したいと思っている方が多いことが分かり、地域と一緒に生徒を育てることができていることが分かった。また、生徒が弱いもの、幼いものである乳幼児との活動を通して、相手の気持ちを考えることや、推し量ることの大切さを学ぶことが出来た。

○ 課題

活動終了後の調査によると、これまでに乳児を抱いたことのない生徒が2割近くいたことが判明した。また、抱き方が不安定な男子も見かけられたので、事前に赤ちゃんのかかわり方を具体的に学んでおく必要がある。母子推進員さんの協力を仰ぎたい。

地域の方がもつ「共に生徒を育てたい」という気持ちを、今後の活動の中でどう反映させるかを課題と考えている。また、命を慈しむことの意味を体験を通して考えることが出来るこの活動を、2年生と3年生の2か年続けることで、より成果があがるものと期待している。

